

# 令和7年における旭川市の人口動態について

## 1 全体概要

表1. 旭川市の年間(1～12月)人口動態

(単位:人)

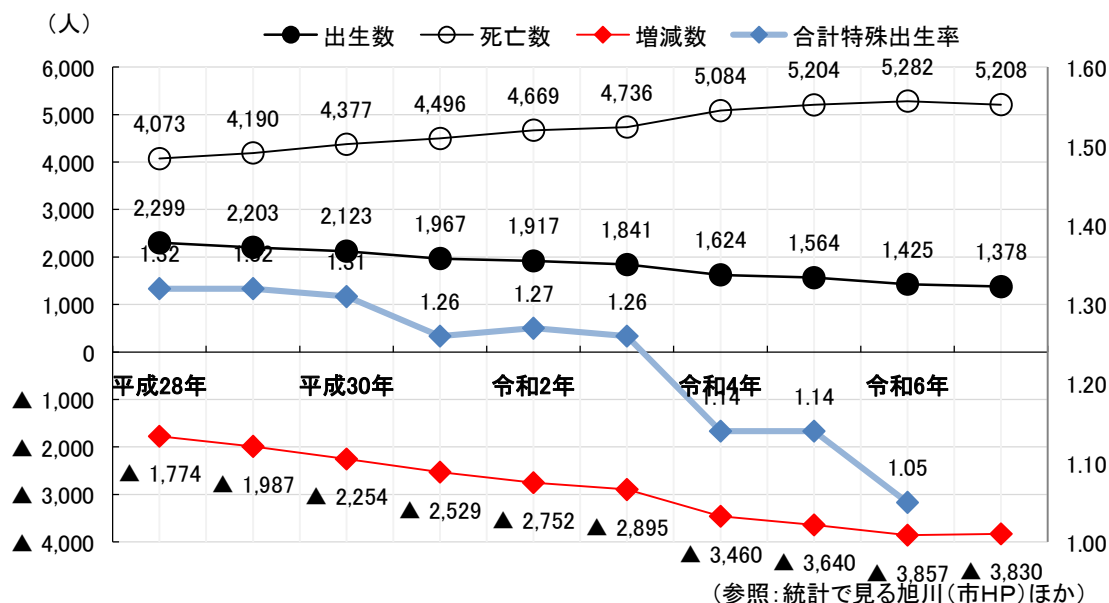
|       | 1月1日<br>現在人口 | 自然動態  |       |         | 社会動態   |     |        |      | 計     | 全体<br>増減 |
|-------|--------------|-------|-------|---------|--------|-----|--------|------|-------|----------|
|       |              | 出生    | 死亡    | 計       | 増移動    | 減移動 | 計      | 計    |       |          |
|       |              |       |       |         | 転入     | その他 | 転出     | その他  |       |          |
| 令和4年  | 324,186      | 1,624 | 5,084 | ▲ 3,460 | 10,048 | 87  | 10,368 | 81   | ▲ 314 | ▲ 3,774  |
| 令和5年  | 320,436      | 1,564 | 5,204 | ▲ 3,640 | 10,103 | 132 | 10,269 | 76   | ▲ 110 | ▲ 3,750  |
| 令和6年  | 316,183      | 1,425 | 5,282 | ▲ 3,857 | 9,718  | 91  | 10,096 | 109  | ▲ 396 | ▲ 4,253  |
| 令和7年  | 312,209      | 1,378 | 5,208 | ▲ 3,830 | 9,500  | 114 | 9,669  | 89   | ▲ 144 | ▲ 3,974  |
| 直近年の差 | ▲ 3,974      | ▲ 47  | ▲ 74  | 27      | ▲ 218  | 23  | ▲ 427  | ▲ 20 | 252   | 279      |

(参照:統計でみる旭川(市HP))

- 令和7年1月～12月における人口動態は3,974人の減少で、自然減3,830人、社会減144人となった。
- 自然増減は前年比27人の増加、社会増減は前年比252人の増加となった。

## 2 自然増減の推移

図2. 旭川市の年間(1～12月)自然増減の過去10年間推移

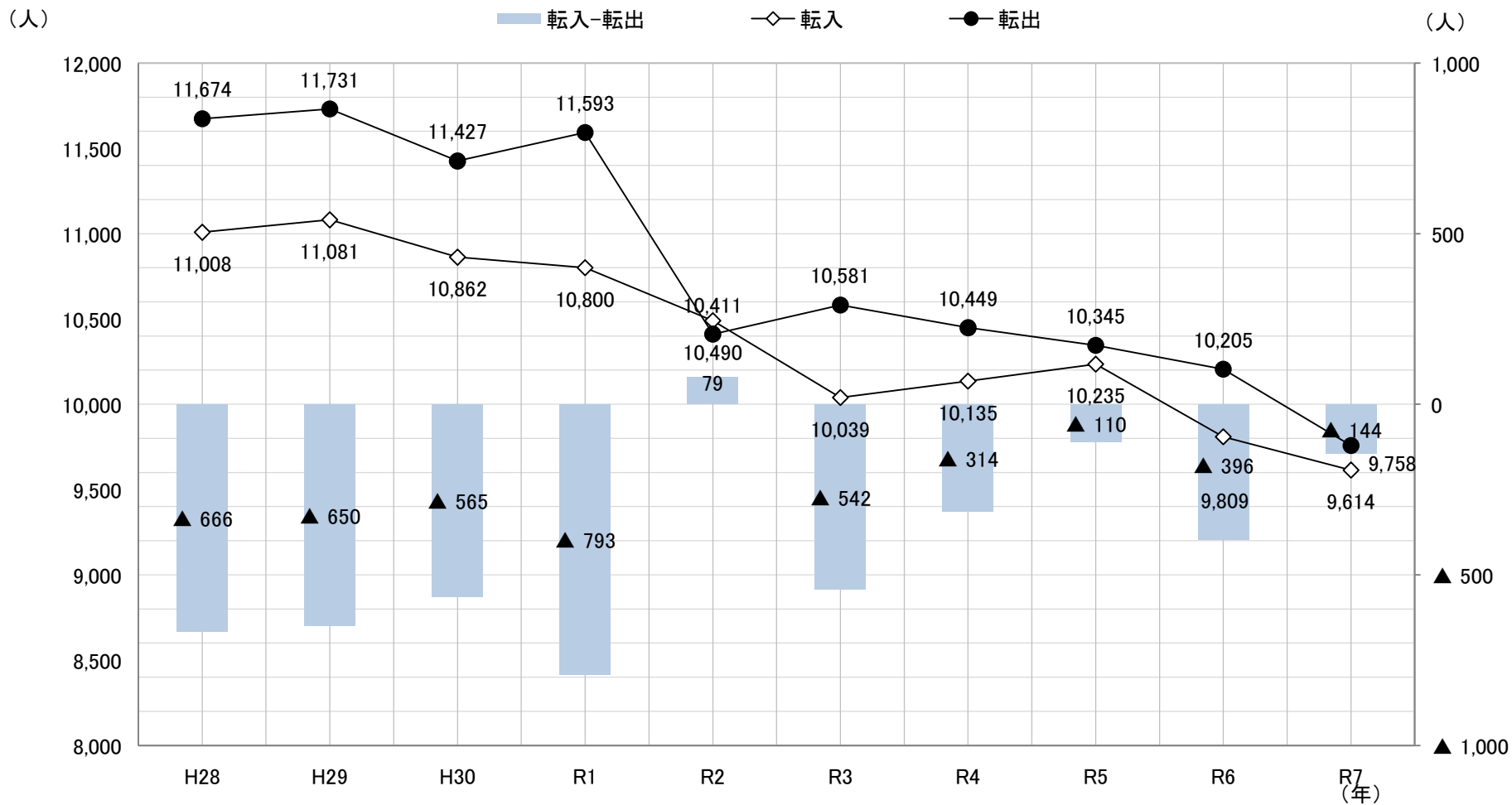


- 死亡数は、増加が続いており、令和7年は前年より74人少ない、5,208人となった。
- 出生数は、減少が続いており、令和7年は前年より47人少ない、1,378人となった。
- 出生率は、平成24年以降、増加傾向で平成28年には1.32となったが、令和2年から減少に転じ、令和6年が1.05となった。(国1.15 北海道1.01)

### 3 社会増減の状況

#### (ア) 推移

図3-1. 旭川市の年間(1～12月)社会増減の過去10年間推移



- 令和7年の転入者数は、9,614人で過去10年間で最も少ない水準となっており、前年より195人減少が拡大している。
- 令和7年の転出者数は、9,758人で過去10年間で最も少ない水準となっており、前年より447人減少が拡大している。
- 結果、社会増減数（転入-転出）は、144人の転出超過となったが、超過幅は252人小さくなった（▲396人→▲144人）。

## (イ) 地域別転出入状況

※図3-2～11の数値については、「その他」を除いた転入、転出の数となっている

図3-2. 過去5年間の道内移動

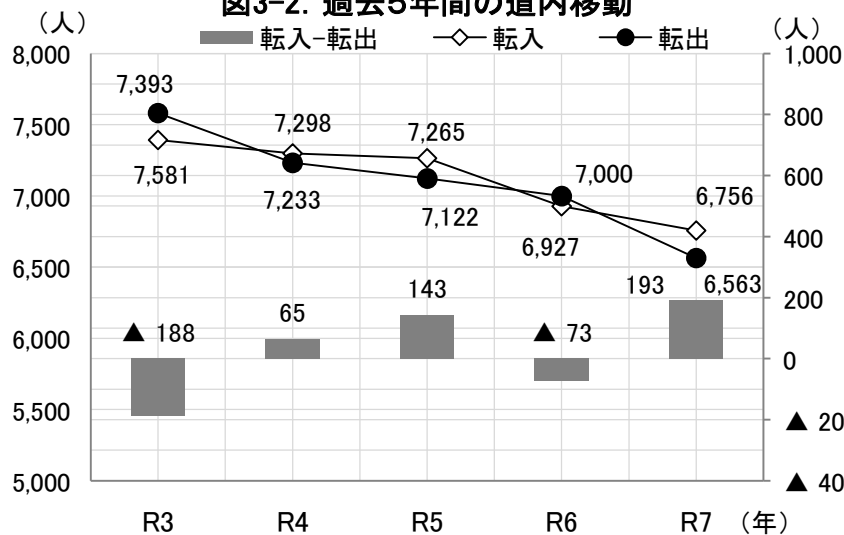


図3-3. 過去5年間の道外移動

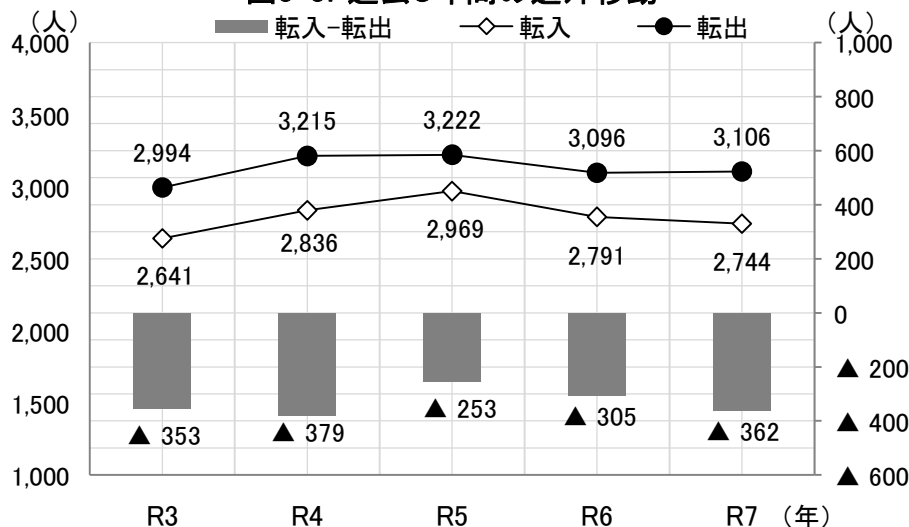
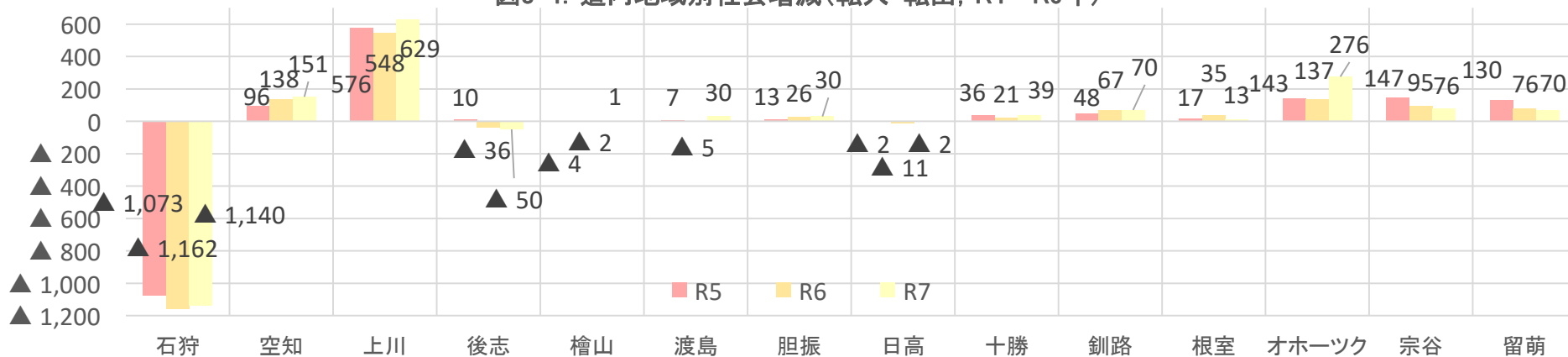


図3-4. 道内地域別社会増減(転入-転出, R4～R6年)



【主な特徴：道内は転入・転出ともに減少、道外は社会減が続いており、R4以降は転入・転出ともに横ばい。】

- (図3-2) 道内移動については、転入者数が5年連続で減少が続いている。(平成26年以降減少が続いている)  
社会動態は令和3年、令和6年に転出超過となったもの、転出の減少が続いており、結果として193人の転入超過に転じた。
- (図3-3) 道外移動については、令和7年は前年と比較して転入者は47人減少、転出者は10人増がしており、結果として362人の転出超過となった。
- (図3-4) 道内移動の14地域別比較では、転出超過が最も大きい石狩地区が前年より22人減少し、1,140人の転出超過と高い水準となっている。  
一方で、空知、上川、オホーツク、宗谷、留萌といった道北、近隣地域からの転入超過の傾向が続いている。

## (ウ) 男女別転出入状況

図3-5. 男性・移動推移

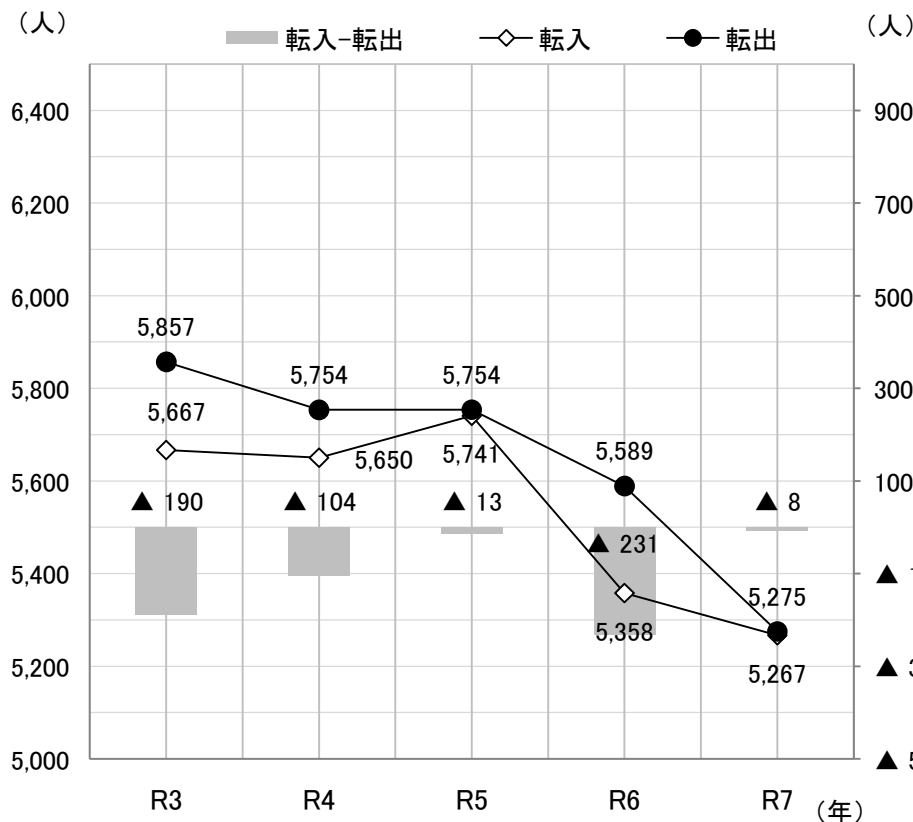
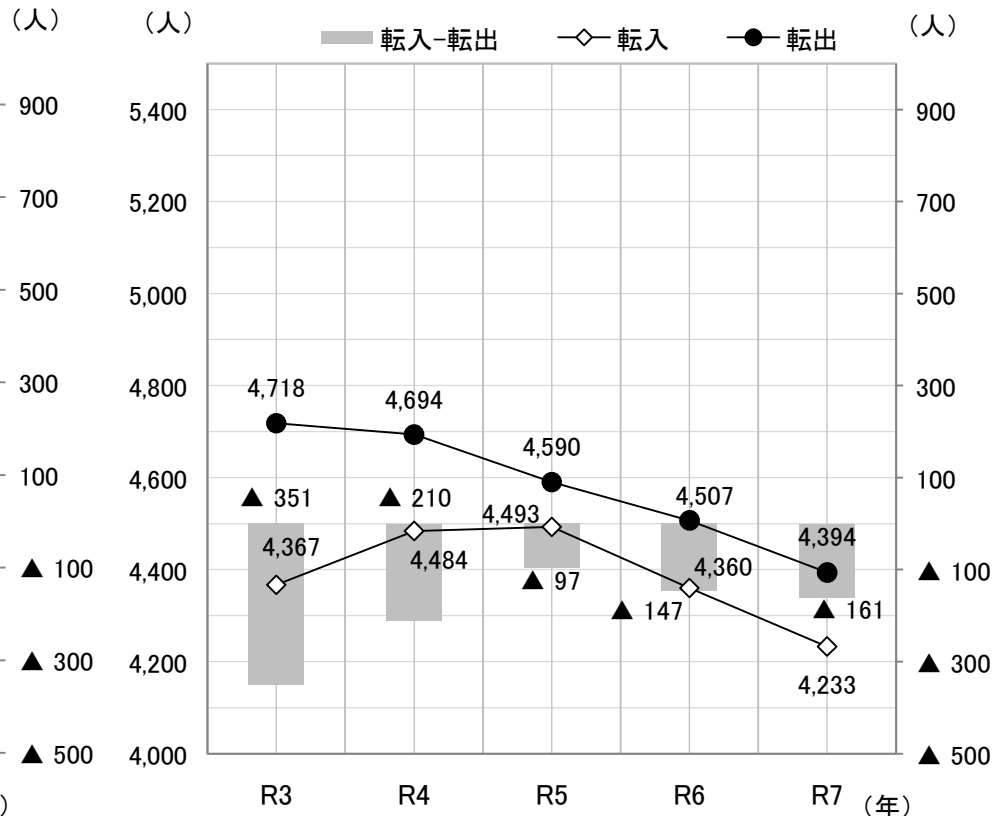


図3-6. 女性・移動推移

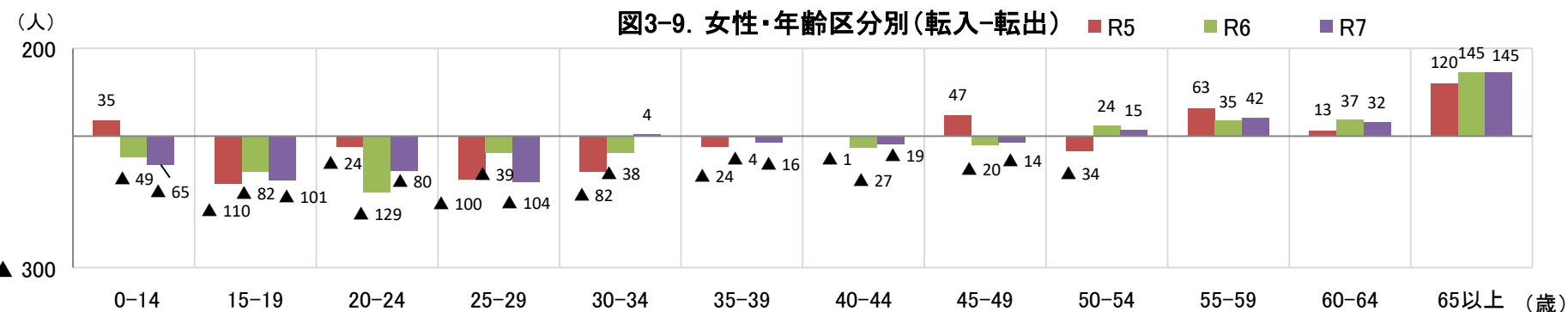
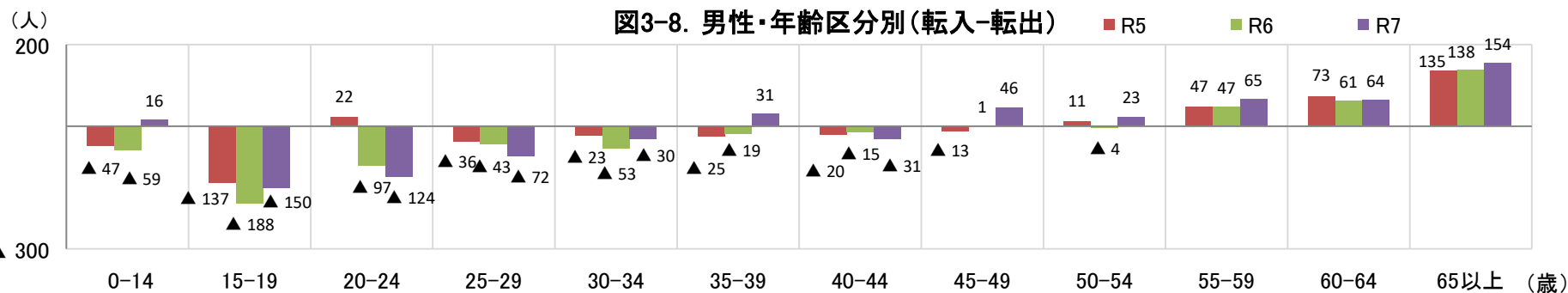
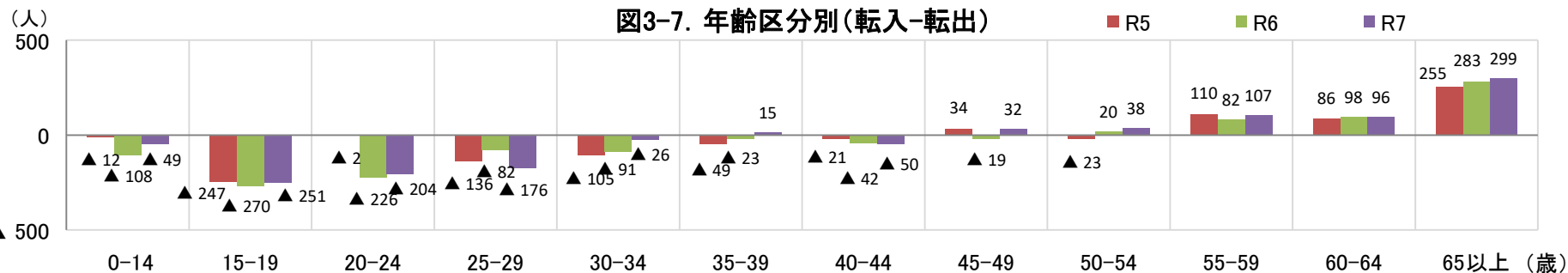


【主な特徴：令和3年から男女ともに社会減少が続いており、令和7年は男性は社会減少が減少したが、女性はほぼ横ばいとなっている。】

- (図3-5) 男性は、転入者数が前年より83人減少し、転出者数は前年より322人減少した。結果、転出超過は8人となり、転出超過は前年から223人減少した(▲231人→▲8人)。
- (図3-6) 女性は、転入者数が前年より127人減少し、転出者数が前年より人減少した結果、転出超過は113人となり、転出超過は前年から14人拡大した(▲147人→▲161人)。

# (工) 年齢区分別転出入状況

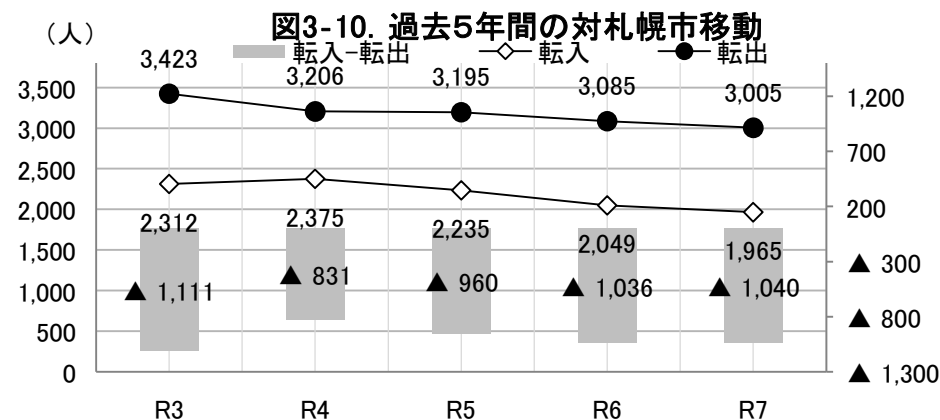
※図3-2～11の数値については、「その他」を除いた転入、転出の数となっている



【主な特徴：前年と比較して若年層（15-29歳）の転出超過幅は拡大（▲578人→▲631人）、依然として若年層の転出が大きな課題。】

- （図3-7）年齢区分別では、転出超過が0-29歳は拡大、30-39歳は縮小、40-44歳は拡大し、45歳以上は転入超過である。
- （図3-8）男性では、転出超過が15-29歳で拡大したが、30歳以上ではおおむね縮小または転出超過がみられる。
- （図3-9）女性では、転出超過が20-24歳で縮小したが、依然として若年層は拡大傾向にある。一方で40-49歳では縮小し、50歳以上は転入超過である。

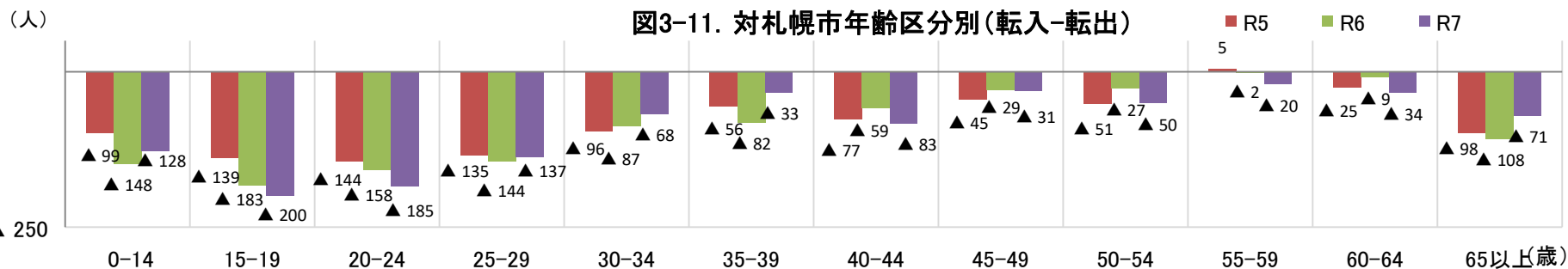
## (オ) 対札幌市転出入状況



(図3-10)

道内移動で転出超過が最も大きい札幌市との転出入は前年より転出者数が80人縮小、転入者数が84人減少した。

その結果、転出超過幅は前年から4人増加し、1,040人の社会減と高水準が継続している。



(図3-11) 年齢区分別では、すべての区分で転出超過となっている。

## 4 令和6年における人口動態のまとめ

- 全体として、自然減が拡大傾向にあり、年間の人口減少数が過去2番目に高い3,974人となった。
- 自然減については、前年より死亡数が74人増加、出生数が47人減少となり自然減は依然として高い。(▲3,857人→▲3,830人)
- 社会増減については  
社会減が前年より252人減少(▲396人→▲144人)  
道内移動については、転入者数が171人減少、転出者数が437人減少し、結果として転入超過となった。(▲73人→193人)  
道外移動については、転入者数が47人減少、転出者数が10人増加し、結果として転出超過が拡大した。(▲305人→▲362人)  
15歳-34歳の転出超過は他の年代に比べ大きく、依然として若年層の流出が課題。